

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価書

令和2年 3月19日

静岡聖光幼稚園

## 1 幼稚園の教育目標

- 自然を素直に受け止め、自然と向き合う感性や意欲を育てよう
- 人と共に生きることの喜びを味わうことのできる社会性を育てよう
- 社会の中で自尊心を持って、自分で生活を営む生きる力を育もう

## 2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- 1 子どもがいきいきと遊び込めるような環境を考えよう
- 2 異年齢のかかわりの充実を図るための工夫をしよう
- 3 自然との関わりを保育に取り入れ、体験できる工夫をしよう

## 3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由	関係者評価
①保育の計画性	A	ECEQの研修を通し、子ども発信の考えをより大切に新しい試みを行ったり、様々な分野で工夫して計画を練ったり等の保育展開が出来た。	○
②保育のあり方 幼児への対応	A	学年に合った保育の見直しや個々をより大事にしていく対応を心掛けるなど教師それぞれが配慮していった。	○
③教師として資質 能力、適正等	A	研修を真摯に受け止め、それを通し、保育の細やかな共通理解を深めることができ、各自が自ら研鑽に努めた。	○
④保護者への対応	A	バス通園以外は送り迎えにし、以前より保護者との対応が密になり、子どもについて深く、又気軽に話が出来た。	○
⑤地域の自然や地 域との関わり	B	園内の自然について充実した保育展開も出来た面もあるが、学年によってさらに考慮し、深めていきたい。	△
⑥研修と研究	A	ECEQを通じて、全体の研修に対する姿勢も前向きになり、保育の見直しにも繋がり、その度合いも深まった。	○
⑦環境整備、 安全点検	B	改善された面もみられたが、経年劣化している部分も見られ、その更なる整備・点検が必要である。	△

#### 4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

今年度は ECEQ を経験した事で、皆で研修についての共通理解がより深まり、実際いろいろな面での子ども主体の保育に取り組んで来れた。が、学年によりその内容にばらつきが見られたところもあるので、来年度は新しい取り組みをさらに考えたい。

#### 5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
園内の自然を取り入れた遊びや活動の工夫をしよう。	・園内に元からある、あるいは取り込んだ自然について考え、整えながら、それらを取り入れたカリキュラムを考え、実践していく。
異年齢のかかわりの充実を図るための工夫をしよう。	・異年齢がペアになり、定期的にお弁当を食べたり、遊んだりを一緒に行うなど、異年齢のかかわりが深まるような取り組みを考え、実践していく。 ・行事においても、異年齢のペアを活かした活動が出来ないか検討していく。
子ども主体の製作活動について考えよう。	・学年ごとに子どもが主体的に取り組める製作活動についてを考え、実践していき、振り返りを繰り返しながら主体性についての考察を引き続き深めていく。それを全体で連携を取りながら進めていく。

#### 6 学校関係者評価委員会からのコメント

ECEQ という公開保育を取り込んだ研修に全体で前向きに取り組み、その後も自主的に様々な面で園内研修を行うなどの姿勢は評価すべき点である。今回検討した課題を教師それぞれが自分なりに研鑽し、又皆で話し合いを持続して、子どもたちのためにさらに教師としての資質も高めていってほしい。又、環境整備、安全点検についても怠る事なく、持続し、気を配ってほしい。

上記、学校評価の報告を受けた事を証明します。

学校法人 大石学園  
静岡聖光幼稚園  
理事長 大石和正